

第1学年

「高校生のための誕生学」

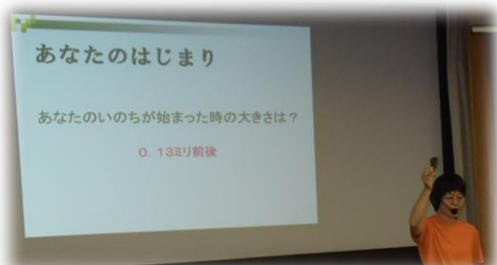
を実施しました

期日：令和元年5月21日（火）5時間目

場所：視聴覚室

内容：「生まれてきたことが嬉しくなると、未来が楽しくなる」をコンセプトとした、次世代育成のためのライフスキル教育

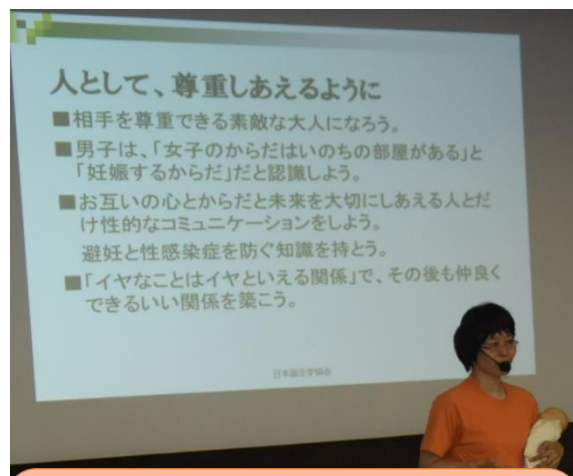
新緑の色増す5月下旬、「公益社団法人 誕生学協会」の認定講師 中井 聖先生（NPO法人ままとーん代表理事）をお招きし、「誕生」を通していのちの尊さや性の健康を守るセルフケアについて、また人生を共にするパートナーとの在り方などに関する貴重なお話を頂きました。



誰もが最初は0.13mmの受精卵からいのちが始まりました。



狭い骨盤の間を、さまざまな工夫をしながら親子で協力し合って生まれてきます。



生徒の

心と未来を大切にしながら、パートナーを尊重できるような、素敵な大人になりましょう！

1組 機械科

- ・「出産は痛い」というのを聞いてはいたが、正直どんな感じなのか分からなかった。今回出産シーンを映像でみて、あそこまでの痛みを耐えて自分を産んでくれた母親に感謝!
- ・今は家族の中で「子供」という立場だが、「次は自分が家族を支える番だ!」と思った。
- ・0.13mmの卵だった自分が、今はこんなに大きくなって、これまでお世話をしてくれた家族にありがとうと伝えたくなった。
- ・お母さんが命がけて僕たちを産んでくれたので、期待に応えられるよう頑張りたいです。
- ・しっかりとした生活基盤と意志をもってから、子供や家族を持ちたいと思った。

2組 ロボット工学科

- ・もともとの子宮の大きさが鶏卵程度だったのに、胃袋の近くまで大きく膨らみながら赤ちゃんが育つことを知った。お母さんは僕を大切にお腹で育てて生んでくれたんだと思った。
- ・今まで育ててくれた親に感謝をしたい。また、「これからもしっかり生きていこう!」と強く思った。
- ・子供を産むことが痛くて辛いことだと分かった。「そこまでの我慢をしてまでも産む理由は・・・」と深く考えさせられた。

・「1人でするマスターベーションは全然悪いことじゃありません。むしろ、心と未来を重ねないで、人の体を使ったマスターベーションはよくありません!」と言っていた事が印象的でした。

3組 電気電子科

- ・「性」とは神秘的なことであることが伝わってきた。
- ・妊娠してお腹の中にいる赤ちゃんが、どうやって地上に出てくるのか初めて知った。出産は不安や痛みがいっぱいで大変だけど、その後が嬉しさでいっぱいなのが分かった。
- ・いのちの道(産道)を通る時の流れがよく分かった。自分の親を尊敬し、大切にしたいと思った。
- ・へその緒をパパが切っているシーンが印象的でした。勇気が必要だっただろうなというのと同時に、その覚悟は「子育てのスタート」という感じがした。

4組 建築技術科

- ・父親は出産の時に何も出来ないことが分かったので、別の場面で負担を軽減してあげられるようになりたい。
- ・赤ちゃんは誰にも教わらないのに、生まれる時にあごを引いたり、頭の骨をずらしたり、回旋したりして、みんな工夫を凝らしながら生まれてくることを知った。まだ赤ちゃんなのに頭が良い!と思いました。